

平成30年度 研究成果発表会プログラム

開会			10:00
1	都内の農耕地土壌は良好な状態に維持されています ～健全な状態に維持するための注意点をまとめました～	生産環境科 南 晴文	10:05 ~ 10:20
2	底面吸水型コンテナで灌水がラクになります ～水分特性を把握し、コンテナに向く有機質培地を検討しました～	園芸技術科 山本 陽平	10:20 ~ 10:35
3	ツルナに発生した菌核病（仮称） ～特産作物に発生した新病害の原因を明らかにしました～	生産環境科 坂本 彩	10:35 ~ 10:50
4	エダマメの出荷期間拡大のための栽培技術の開発 ～東京都内でも4月から12月まで収穫できます～	江戸川分場 馬場 隆	10:50 ~ 11:05
5	コマツナバナとミニチンゲンサイの残留農薬 ～農薬の残留性を調査し、安全性を確認しました～	生産環境科 松下 裕美	11:05 ~ 11:20
6	江戸東京野菜「東京ウド」のマーケティング調査 ～出荷の安定と作期拡大に向けて品種開発を加速化します～	園芸技術科 小坂井 宏輔	11:20 ~ 11:35
7	ウメ「梅郷」の樹体ジョイント仕立て栽培 ～東京特産ウメ品種の早期成園化を実証しました～	園芸技術科 杉田 交啓	11:35 ~ 11:50
休憩			11:50 ~ 13:10
特別講演『地球温暖化と東京の果樹、野菜生産』			13:10 ~ 14:10
休憩			14:10 ~ 14:25
8	東京型統合環境制御生産システム（東京フューチャーアグリシステム） における低コストな暑熱対策 ～簡易な資材で夏の暑さを乗り切ります～	生産環境科 中村 圭亨	14:25 ~ 14:40
9	東京フューチャーアグリシステムによる果菜類の多収栽培 ～先進技術の導入でトマト・キュウリ・パプリカの生産性を飛躍的に高めます～	園芸技術科 沼尻 勝人	14:40 ~ 14:55
10	少花粉ヒノキを増やすために ～安定した量の種子生産に目途をつけました～	緑化森林科 畑 尚子	14:55 ~ 15:10
11	新しい街路樹向き緑化植物の防災機能の評価 ～防災機能を有する新しい街路樹や公園樹を選定しました～	緑化森林科 小野寺 洋史	15:10 ~ 15:25
12	体外受精卵移植によるトウキョウXの子豚誕生 ～トウキョウXでは初の成功例です！～	畜産技術科 鈴木 亜由美	15:25 ~ 15:40
13	乳酸菌を強化した新しい漬物の開発 ～コマツナキムチやべったら漬けなど乳酸菌を利用した新たな食品を開発しました～	食品技術センター 竹友 直生	15:40 ~ 15:55
閉会			16:00

特別講演 『地球温暖化と東京の果樹、野菜生産』

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業部門
生産・流通研究領域 園芸環境ユニット長 杉浦 俊彦 氏

温暖化はすでに始まっており、昨夏は、東京都内で初めて40℃超が観測されました。気温は植物の生育速度を制御するため、冬・春野菜の早期生長、ブドウの着色、コギクの開花などの遅延がみられます。また、日焼けのような高温障害も現れています。一方、こうした影響を軽減するための栽培技術や、温暖化対応品種などの開発、導入も進められています。都内の園芸作物を中心に温暖化の影響と対策に関する話題提供を行います

<杉浦 俊彦(すぎうら としひこ)氏 プロフィール>

1987年から現在まで、農林水産省果樹試験場、農研機構果樹研究などにおいて、気象と果樹生育との関係に関する研究を継続。2000年頃から将来のリンゴ、ウンシュウミカン等の適地予測など温暖化に関する研究を実施。2016年より現職。果樹の温暖化対策に関する研究プロジェクトリーダーおよび温暖化に関する政府検討会委員を多数歴任。著書に「温暖化が進むと農業、食料はどうなるのか？(2009、技術評論社)」など。

